



公示地価 石川2年連続上昇

プラス0.1%、87地点前年超え

国土交通省は27日、今年1月1日時点の全国の公示地価を発表した。石川県内は全用途の平均変動率が前年と同じプラス0.1%となり、2年連続で上昇した。3年前の北陸新幹線金沢開業に伴い、高い伸びを示してきた金沢駅周辺や金沢市

金沢・広岡
伸び率最高の11%

中心部の商業地は依然として上昇しているものの、ペーシングが鈍化している。住宅地は景気拡大や低金利環境を追い風に上昇地点が大きく増加した。
「4、5、13、17、41面に
関連記事」
全用途でプラス0.1%

の平均変動率は全国47都道府県で16番目に高い。1平方メートル当たりの平均価格は7万8000円で、前年と同じ全国17位。前年はバブル崩壊直後の1992年以来、25年ぶりに上昇していた。
商業地は平均変動率プラス0.7%、平均価格13万

公示地価 国土交通省が地価公示法に基づき公表する1月1日時点の土地の価格。一般の土地取引や公共事業の用地取得、固定資産税評価の目安として利用される。調査地点は全国の住宅地、商

業地、工業地など計2万6千カ所（うち福島の12カ所は休止）土地の価格の指標は他に、都道府県が公表する7月1日時点の基準地価や、国税庁が公示地価に基づいて算出する主要道路沿いの路線地価がある。

円だった。3年連続で上昇したが、プラス幅は前年の1.2%より小さくなった。住宅地は平均変動率が前年のマイナス0.4%から同0.1%となり、8年連続で下落幅が縮小した。平均価格は5万1000円だった。

石川県内の上昇地点は前年の68地点から87地点に増えた。内訳を見ると、商業地が19地点から21地点となったのに対し、住宅地は48地点から65地点と大幅に増えた。工業地は昨年と同じ1地点だった。
県内の最高価格地点は、11年連続で金沢駅兼六園口（東口）にある金沢市本町2丁目目の商業地となり、価格は95万5千円、上昇率は

8.5%だった。平均変動率が最も高かったのは、金沢駅金沢港口（西口）に位置する金沢市広岡1丁目目の商業地で、プラス11.1%の60万円だった。プラス幅は昨年の20.0%から縮小した。
市町別で変動率がプラスとなったのは金沢（1.6%）、野々市（1.5%）、津幡（1.4%）の3市町だった。
調査は県内17市町の商業地、住宅地、工業地の計28地点を対象に行われた。